

# 原子力機構の社会価値創造へのストーリー

原子力機構は、「安全」「コンプライアンス」「実行」を重要課題とし、日本で唯一の総合的原子力研究開発機関としての技術や知見を、より社会の皆様のために役立ててまいります。





# 原子力機構の重要課題



## 「安全」

原子力機構は、業務運営にあたって安全確保の徹底を大前提とし、経営及び業務運営の基本方針の最優先事項としています。また、保有する原子力施設が潜在的に危険な物質を取り扱うとの認識に立って、安全確保、品質保証と核セキュリティを徹底しています。そして、自らの行動基準の最上位に安全確保を掲げて行動しています。

こうした「安全」への取組については、「安全確保を業務運営の最優先事項として(P20-P23)」「核拡散及び核テロの脅威のない世界を目指して(P24-P25)」として御説明しています。

## 「コンプライアンス」

原子力機構は、国民や立地地域の皆様から信頼される組織であるために「機構の経営理念、行動基準等を踏まえ、法令等のルール及び契約並びに企業倫理を遵守し、社会の良識に適合するよう行動すること」を「コンプライアンス」と定義しています。その遵守に積極的に取り組むとともに、コンプライアンスに関する通報に対して適切に対応します。

こうした「コンプライアンス」への取組については、「適正な契約(P40)」「リスクマネジメント・コンプライアンスの推進(P41)」「広聴広報と情報公開(P42-P43)」として御説明しています。

## 「実行」

原子力機構のミッションは、原子力科学技術を通じて人類社会の福祉に貢献することです。一方で原子力機構の研究開発の成果は、原子力のエネルギー利用以外にも広く活用できるものも多くあります。これらを踏まえ、原子力機構は自らの使命を見つめなおし、その実現のための新たな研究開発の仕組みの構築等を図るため、「イノベーション創出戦略」を策定し、2017年3月31日に公開しました。

「イノベーション創出戦略」を実行していくことで、日本で唯一の総合的原子力研究開発機関としての技術や知見を、より社会の皆様のために役立てていくことに努めていきます。その実行にあたっては、機構の目指すべきイノベーションとして「原子力のエネルギー利用に係るイノベーション」と「原子力科学を通じたイノベーション」に分類して整理しています。こうした「実行」への取組については、「国際戦略・産学官連携・原子力分野の人材育成」に関するものを「研究開発を促進させる取組(P26-P27)」として御説明しています。

また、「研究開発」に関するものを「福島研究開発部門(P28-P29)」「安全研究・防災支援部門(P30-P31)」「原子力科学研究部門(P32-P33)」「核燃料・バックエンド研究開発部門(P34-P35)」「高速炉・新型炉研究開発部門(P36-P37)」「敦賀廃止措置実証部門(P38-P39)」として御説明しています。

# 原子力機構イノベーション創出戦略(「実行」)

## 原子力機構を取り巻く社会課題

原子力機構を取り巻く社会課題として、「エネルギー資源問題」「原子力施設のバックエンド(原子力施設の廃止措置と放射性廃棄物の処理処分)」「国際競争力の維持」「核不拡散・核セキュリティの確保」「原子力エネルギー利用の安全性」及び「東京電力福島第一原子力発電所事故」等があります。

## 社会課題解決に向けた取組

こうした社会課題の解決を通じ、原子力機構の掲げる「原子力の未来を切り拓き、人類社会の福祉に貢献する」というミッションを達成するために、「イノベーション創出戦略」において、目指すべきイノベーション、その創出に向けた取組方針及び戦略的取組を定めています。

## イノベーション創出戦略の具体的事例

イノベーション創出戦略においては、「共創の場」の活用による異分野・異種融合の促進、研究開発手法の改革、顧客視点の醸成、施設の供用の促進等を基本的取組方針として行っていくこととしています。

異分野・異種融合の促進として、機構が保有する研究・技術シーズを民間企業に幅広く紹介する技術サロンの開催に向け、金融機関やシンクタンクとの連携を開始しました。



イノベーション講演会「第4次産業革命期における研究者の生き方」の様子

研究開発手法の改革として、最先端の計算科学技術を一層駆逐することを目指し、機構内のシミュレーション技術の横通しを図る取組を進めています。顧客視点の醸成に向けては、イノベーションに関する講演会の開催により、自らの研究開発を世に役立てていくための方策等を紹介しています。施設の供用の促進については、今後運転再開する原

子力施設とその周辺機器を合わせた供用プラットフォームの構築に向けた検討を開始しました。

引き続き、イノベーション創出戦略を展開していくことで、日本で唯一の総合的原子力研究開発機関としての技術や知見を、より社会の皆様のために役立てていくことに努めていきます。

## JRR-3を中心とした供用プラットフォーム構想(イメージ)

